

# オリエンテーション (授業の前に)

「幸せ」になるための授業、  
約束します！

みなさん、おはようございます！

私、ひだいかずたか比田井和孝と申します。よろしくお願ひします！

今日一日、ここにいるみなさんの「幸せ」のために、

私は「本気」でお話します。

ぜひ、心を開いて私の話を聴いてください。



## 1. この授業の目的

さて、まず本授業前のオリエンテーションということでお伝えしたいことは

「この授業の目的は何か」  
「しせい至誠を貫くことが幸せにつながる」

この2つです。  
早速一つ目、「この授業の目的は何か」です。



この授業は「就職対策授業」ですが、この名前から普通に考えれば、この授業の目的は「みなさんに就職してもらうこと」ですよね。例えば「履歴書の書き方」とか「面接ノウハウ」とかね。

一番初めに私は、「みなさんの『幸せ』のためにお話します」と言いましたが、それでは、就職さえできたら、みなさんは一生幸せに生きていけるんでしょうか？「就職さえすれば」とか「知識や資格があれば」みなさんはもうずっと幸せに生きていけるかと言うと、そうじゃないと、私は思っています。

大事なことは、就職した、その後ですね。就職をしたその先で、みなさんが周りの人から信頼され、必要とされ、『あの人とだったら一緒に働きたい』と思ってもらえるような、そんな人になること…

それが、みなさんの「幸せ」だと思っているんです。

つまり、この授業の目的は、「みなさんに就職してもらうこと」ではなく、「みなさんに幸せになってもらうこと」なんです。ですから、そのつもりで授業を受けていただきたいのです。

## 2. 4つの「じんざい」

良く、「人材」という言葉を使いますが、実は、この「じんざい」には4つの漢字があるそうです。

「人罪」、「人在」、「人材」、「人財」。

「人罪」は「罪な人」ですから、人に迷惑を掛ける人です。例えば、仕事がいつもいい加減でトラブルを起こしたり、イジメをしたり、人の悪口ばかり言っているような人です。

「人在」は「存在する人」です。「そこにいるだけ…」という感じの人かもしれませんね。

「人材」は、仕事もきっちりやってくれて、技術も知識もあるんだけど、もしも辞めてしまったら、同じ技術や知識がある人で補える、という人です。「材料」ですから、換えがきくんですね。

「人財」は「財産となる人」です。

「君がウチの会社に来てくれて、本当に良かった」  
「君の代わりはいないよ」と言ってもらえるような人です。

私はみなさんには、なんとしても「人材」になってほしい  
と思うんです。

じゃあ、「人材」と「人財」の違いは何だと思いませんか？

…それは「人間性」です。なぜかと言うと、私は、  
仕事は「知識や技術」でするものではなく、  
「人間性」でするものだと思うからです。

ですから、この授業では「人として大切なこと」や  
「なんのために働くのか」についていろいろな角度から話し、  
みなさんと一緒に考えていきます。

この授業が、「自分を見つめ直し、自分を変えるきっかけ」に  
なってくれば良いと思っています。

就職のテクニック…いわゆる「やり方」の前に、  
社会に出るためには、どういう心構えで臨むのか、  
という「心のあり方」が大切だと思うからなんです。

「あり方」なしに、「やり方」だけ教えても、  
まったく意味がないでしょう。  
逆に「あり方」さえしっかりしていれば、  
「やり方」は自分で考えられるようになるんです。

この授業で「あり方」をきっちり身につけて、  
いい仕事ができる人、必要とされる人になって、  
みんな幸せになってほしい…そんな風に思っています。

### 3. 「至誠」を貫く、吉田松陰よしだしょういんの松下村塾しょうかそんじゅく

佐藤芳直さんのお話より

さて、みなさん「吉田松陰」という人、知っていますか？

「株式会社S・Yワークス代表取締役」の  
佐藤芳直さとうよしなおさんが吉田松陰のことを細かく研究されていて…

…あ、芳直さんっていうのは、以前は、船井総研にいらっしやって、  
あの船井幸雄ふないゆきおさん（株船井総合研究所最高顧問）から  
「10年に一人の天才コンサルタント」と言われていたほどの方です。  
その芳直さんから、吉田松陰のいろんなお話をお聞きしたのですが、  
この人、本当にものすごい人です。

吉田松陰は江戸時代後期、幕末の人です。

何をした人かって言うと、  
長州の片田舎…今の山口県ですね。その「萩はぎ」という場所で、  
「松下村塾」という学校を開き、  
たった1年と1カ月、79人の若者に、いろんなことを教えました。

でね、その門下生には  
高杉晋作たかすぎしんさくとか、久坂玄瑞くさかげんずいとか、よくTVの新撰組に登場してくる、  
桂小五郎かつらごころう…後の木戸孝允きどたかよしとか、  
伊藤博文いとうひろぶみとか、山県有朋やまがたありともという人がいたんです。

そして、なんと、その時代に  
門下生の中で、5～6人がヨーロッパに留学しているんです。  
言葉もわからない、あの時代に。

…ヨーロッパってどこにあるの？ どうやったら行けるの？

…って、そんな時代にヨーロッパに留学しているんです。  
日本を良くするためにヨーロッパに学ぼうって言って。

さらに、その門下生の中から、明治維新後の総理大臣が二人、  
…ちなみに、伊藤博文が初代総理大臣ですよね。  
山県有朋が二代目の総理大臣です。

そして10数名の、大臣…今で言えば、文部科学大臣とかね、  
そんな大臣が、10数名も出たんです。  
…で、これすごいのは、79名の若者って書いてありますが、  
別に優秀な人たちを集めたわけじゃないんですよ。

まさに、片田舎の若者です。そこには、  
農民の子供もいたそうです。  
武士の子供もいたそうです。  
商人の子供もいたそうです。

いろんな子供です。別に優秀な人を集めたわけじゃない。  
そこでたった1年と1か月教えただけで  
その中から、こんなすごい人たちが出てきている。  
これは、「奇跡の学校」と言われているそうですけど。

さあ、気になりますねえ～。  
吉田松陰は、ここで何を教えたんだ？ …ってことです。

吉田松陰は、子供達から「松陰先生」と呼ばれていたのですが、  
松陰先生が教えたことは、結局 その79人の若者達に、

「お前は何のために生まれてきたのか」  
「お前の生まれてきた役割は何か」

ということを、教えてあげた…  
…というよりは、気付かせてあげたということです。  
「お前の長所はこういうところだぞ。  
これから、それを活かして、  
どう世の中の役に立つて行くんだろう？」って

自分の長所…役割に気付いた人は、すごいパワーを発揮しますよ。  
その後、松陰先生は処刑されてしまうのですが、  
松陰先生がいなくなった後も、  
自分の力で活躍しちゃうんですから。日本のために。

中には、こんなことを言う門下生もいたそうです。

「松陰先生、そんな、世の中に生まれてきた役割って言われても、  
私にはわかりません。」

そんな門下生に対して、松陰先生は、こういったそうです。

「“至誠”を貫きなさい。

“至誠”とは、普段やらなければいけないことを、  
真剣に本気で、誠意をもってやることだ。

朝起きたら、玄関の掃除、鳥のエサくれ、布団干し…  
そういうことを真剣にやりなさい。  
絶対に手を抜かないで、とにかく真剣にやりなさい。  
そうしたら、いつか自分の役割が必ずわかる。」

みなさんであれば、

あいさつはしっかりするとかね、  
学校には絶対に遅刻しないで来るとかね、  
人の話をちゃんと聞くとか、  
そういうことを誠心誠意やりなさいってことなんです。

…そんなことで、役割ってわかるのかなあって  
みなさんは思うかもしれませんが、わかると思います。私は。

勉強だけじゃ、まだわからないかもしれませんが、  
みなさんがね、この後、仕事に就いた時ですよ。  
みなさんがその仕事を本気で誠心誠意やっていったら  
いつか必ずわかります。私もそうでしたから。

その時与えられた仕事を、本気できちっとやっていったら  
「あ、自分が生まれてきた役割ってこういうことかなあ」  
…ってところに気がつきます。

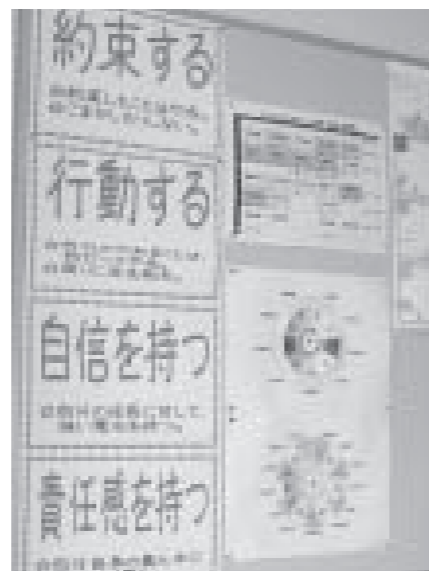
だから、普段が大事なんですね。何でもそうですけど。  
普段どれだけのことをやっているか、  
これが大事だと、松陰先生は教えたそうです。

松陰先生の話で伝えたいことは、

「普段の生活で、至誠を貫くこと」

「自分だけの人生の役割に気づくこと」

…この二つがどれだけ大事か、  
ということです。



#### 4. 本気の鍋洗い、<sup>みくにきよみ</sup>三國清三さんの「至誠」

もうひとり、「至誠」を貫いた方を紹介します。  
オテル・ドゥ・ミクニというレストランに、  
三國清三さんというシェフの方がいらっしゃいます。  
この話も芳直さんがお話してくださいました。

三國さんと言えば、フランス料理の第一人者です。  
「世界に知られる日本人シェフ」と言われています。

三國さんは、昭和29年に生まれました。  
で、なんと昭和44年、15歳の時に  
北海道でナンバーワンって言われる  
札幌グランドホテルの厨房に入ります。

この人、ものすごい才能があったんですね。  
たった数年間働いただけで、  
若くしてそこの花形シェフになるんです。

でもこの人、まだまだ志が高いんです。  
料理の頂点を目指して東京に行くんです。  
行った先は、帝国ホテル。当時、日本一のホテルです。

その時、総料理長は<sup>むらかみのぶお</sup>村上信夫さん。  
「ムッシュ村上」と呼ばれていた方ですね。  
フランス料理では日本一といわれていた人です。  
村上さんは、平成17年に、84歳で亡くなってしまったんですけどね。

三國さんは最初の日、その村上さんから  
「鍋でも洗ってもらおうか」と言われます。

三國さんにしてみれば、  
「俺は札幌グランドホテルで人気シェフだったんだ！」  
というプライドもあったでしょう。  
「その俺に、鍋洗いをさせるとは、どういうことだ！」  
ってムカッとなったそうです。

でも三國さんはさすがです。  
「それなら、三國の鍋洗いをみせてやろう」と思い、  
その日は徹夜で、鍋の取っ手のネジまではずして、  
キレイに磨き上げたそうです。

そして、翌朝その鍋を調理台の上にズラ〜っと並べておいたそうです。

村上さんはそれを見て、三國さんに  
「キレイに洗えていたね」  
と言ったそうですが、三國さんが  
「今日は何をさせてもらいましょう？」と聞いたところ、また、  
「そうだなあ、鍋でも洗ってもらおうか」と言ったんですって。

で、なんと、このあと三國さんは  
2年もの間、鍋洗いをし続けたそうです。

もちろん、悔しかったと思いますよ。  
でも、三國さんの偉いところは、その時に、  
「鍋洗いなんて…」と手を抜くようなことはしなかったんです。

「そんなこと言うのなら、俺の鍋洗いをみせてやる！」と

来る日も来る日も鍋をピカピカに磨き続けたんですね。隅々まで。

でもさすがに2年間も鍋洗いを続けていて、

「このままここにいると料理の腕は上がらない」

と思っただけですね。  
もう、村上さんのところに行って  
「辞めさせてください」と言おうかと思っていたんですって。  
でも、逆に村上さんに呼ばれて、

「来月から、スイスの日本大使館公邸の料理長をやらせてもらう」

と言われたんですって。これ、ものすごい大抜擢ですよ。

鍋洗いばかりしていたんですよ。三國さんは。  
料理なんてそんなにしていないんですよ。  
帝国ホテルに来てからの、この2年間。  
しかも、二十歳ですよ。二十歳。

スイスの日本大使館公邸の料理長と言えば、  
各国の王室関係者、首相、外務大臣などが訪れるわけですよ。  
そんな、VIP達の夕食会や公式行事で  
どんな料理でもてなすのか、ということは  
本当に大事なことですよね。

周りの人は猛反対したそうです。

「鍋洗いしかしていない三國を  
なんでそんなところに行かせるんですか!？」

他にもっと優秀な料理人が  
たくさんいるじゃないですか！」

当時、帝国ホテルには600人以上いたそうですよ。料理人が。

その時村上さんは、

「鍋洗い一つ見れば、その人の人格がわかる。  
技術は人格の上に成り立つものだから、  
あいつだったら間違いない」

って言ったそうです。すごいじゃないですか。  
でも、それくらいの鍋洗いだったってことですよ。  
本気の鍋洗いですよ。

三國さんは、

「料理道具がキレイでなければ  
気持ちよく料理を作れない。  
もちろん、いい料理なんて作れないはずだ」

という信念があったそうです。  
他の誰よりも鍋をきれいに磨き上げないと  
気がすまなかったそうです。  
これ、まさに「至誠」だと思います。

普段やらなければいけないことを  
徹底的に、真剣にできる人ってすごいですよ。

至誠、大事ですね。本当に。

## 5. 「3つの約束」で人間力が高まる

さて、みなさんの、  
普段やらなければいけないことって何ですか？  
普段やらなければいけないこと…  
これは「当たり前のこと」とも言えると思うんです。

みなさんが「人財」になるためには、  
「当たり前のこと」をキッチリこなして、  
「至誠」を貫くことが、大事なんじゃないでしょうか。  
そういうことこそ、「人として大切なこと」だと思っ

私は、当たり前のことの中でも、特に  
「あいさつ・掃除・素直」の3つが大事だと思っています。

この3つの言葉を聞いて「な〜んだ、そんなことか」  
と思った人もいます。  
でも、実際自分の行動を振り返ってみてください。

「いつでも誰に対しても、本物のあいさつができますか？」  
「誰も見ていなくても、隅々までトイレ掃除ができますか？」  
「他人の考えを受け入れて、素直に話を聴くことができますか？」

意外とできないんですよ。みんな  
でも、だからこそ、この3つがきちっとできる人は、  
いい仕事ができる人になれると思っ

これから授業を聴いたら約束してください。

「あいさつ・そうじ・素直」をキッチリやると。  
「3つの約束」です。

どうですか？ できそうですか？

当たり前のことを当たり前やるってね、  
本当に難しいんです。  
この言葉、私、好きなんですけど、

「一番大切なことは、  
一番大切なことを  
一番大切にすることである」



…何を大切にしなければいけないかって、  
みんな知ってはいるんだけど、  
実際にはそれができていない人がどれだけ多いかってことですよ。

だからこそ、こういう当たり前のこと…  
「人として大切なこと」をキチッとやって、  
人間的に大きく成長して、  
「人財」と言われる人になってほしいんです。

「人財」になれば、こんなに幸せなことはないと思います。  
会社では、「君がいてくれて本当に良かった」と感謝され、  
お客様に喜んでもらえるようないい仕事ができる…

そしてそんな人なら、  
幸せな家族を持って、幸せな人生を送って、  
感謝しながら人生を終えることができると思うんです。

幸せじゃないですか。そうなったら。  
みなさんには、幸せになってほしいんです。

みなさんが、本当に幸せになるための授業、  
私がお約束します。私は「本気」です。

